

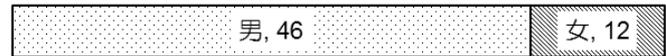
キャリアパス・男女共同参画に関するアンケート結果

一般社団法人 日本放射線影響学会
キャリアパス・男女共同参画委員会

回答数：58

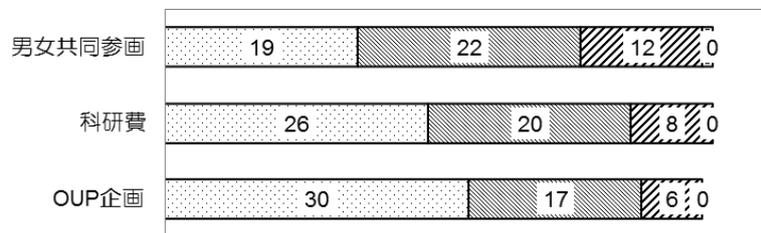
回答者の属性：

□20代 ■30代 ▨40代 ▩50代 □60代以上

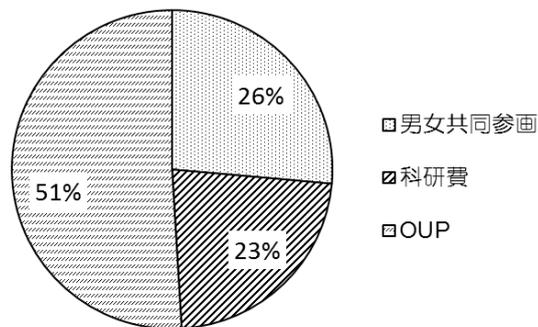


(質問1) 今回の企画が、ご自身の役に立ったと感じたか、5段階で評価ください(最も役立った場合「5」とする)

□5 ■4 ▨3 ▩2 □1



(質問2) 3つのランチョンセミナーの中で最も興味深かった企画はどれですか？



<男女共同参画についてのご意見>

- 女性のライフイベントでの働くことの中断は、国家的損失。職場から女性がいなくなると残された男性がもっと働かなくてはならなくなる。このような考え方を学べたのは大変良かったから。
- タイトルはよく目にするが、具体的な活動については知らなかったため
- 自身が社会へ出る時にも、男女間の労働状況の差が付いて回るから
- 現在、当研究所で考え進めているので
- 富山大の先進的取組みが参考になった
- 自身の周辺でも女性研究者のハンディキャップが見てとれるから
- 介護支援といった点に興味を持った
- 初めての試みであった

<科研費取得についてのご意見>

- 研究費の確保は死活問題となっている為
- 当たり前のことが再確認できた
- 研究資金を継続的に得ることの難しさが分かったからです
- 研究において費用の問題は常に発生するもので、興味深かった

- 科研費申請をする方の事情を知ることができたから
- 研究者にとって研究費の獲得は重要であるため

<OUP 企画についてのご意見>

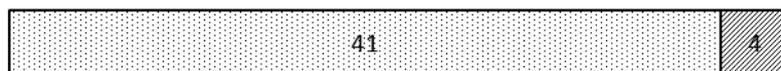
- 現在、英文雑誌に投稿している最中のため
- 今後の論文投稿への参考になった
- 最近の JRR の IF やその状況（レビュー含む）がよくわかりました。
- JRR への愛着が増した
- IF の考え方など目新しい話を聞くことができた
- Impact factor の成り立ちは興味深かった
- IF について詳しく知らなかった為、今後の参考になった
- 詳細に聴くことができたので
- 身近なことだったので。
- 今後、論文を出すのに参考になったから
- IF の意義
- 自分に直結する問題
- 学会誌の意義など改めて認識できて、JRR への論文投稿を積極的に行おうと思いました。

(質問3) キャリアパス・男女共同参画活動で今後取り上げて欲しい企画・活動についてご要望がございますか？

- 学会の託児施設を継続して設けることの実現の可能性。費用・予算等の観点からお話し頂きたい
- 学生向けのキャリアパスの経験談など
- 良いプレゼン・ポスターの作り方。受賞を目指して。影響学会と若手の会の関係と今後について
- 各大学での具体的な取り組み
- ライフワークバランスにおける日本と欧米各国の比較
- わからないが特になし
- 学会・シンポジウムでの託児施設を設けて欲しい
- 多様なロールモデル：具体的な事例
- 継続的なとりくみが必要
- 若手の勉強会（論文の書き方）、研究者（教授レベル）とのディスカッションの場（RRSには少人数のテーブルディスカッションがある）
- 共同研究のしかた、科研費以外の予算
- 各大学での取り組み状況についての情報交換
- アクセプトされやすい論文の書き方
- 当学会で発表されてきた数多くの業績について、各分野毎に若手研究者がレビューしてはどうですか
- （キャリアパス）グラント案内など。放射線生物系の研究内容で、どんなグラントをとっているか、穴場グラントなど
- （男女）具体的な一日の様子など、大変さを共有する、あるいはうまくいっているなら、時間の使い方の勉強など

(質問4) 育児中の会員向けに託児施設の支援を実施しましたが、こうしたサービスについてどう思いますか？

続けて欲しい あまり必要ない



<続けて欲しいという意見>

- 今回の利用の有無は別として、このような活動があることを広く世の中に発信してほしい。医師とか研究者とか特別な職業だけでなく、広く女性の社会進出があとおしされている空気をつくってもらいたいから
- より多くの研究者が研究に打ちこめる様になるため
- 医師、研究者にとって託児は嬉しいもので、男女ともに賛同できる
- 女性研究者の支援になるから
- 夫婦で学会員であるため必要。欲を言えば託児サービスを学会会場（または近く）でやってほしい
- 今、子供がいなくても、将来産まれて必要になることが考えられるから

- 参加者の利便性を高めて、会の運営に貢献されるから
- 続けること当然なり
- 女性研究者が学会への参加が可能となる
- 子供が欲しい場合は育てるにあたり必ず施設が必要になると思われる為
- 女性が活躍するためには必要であると思う。
- 将来選択の幅がひろがるから
- 自分自身は利用をしていないが、女性の研究者にとっては負担がひとつ軽減されるかと・・・
- 実際に2人の子供を院内保育園にあずけていたので
- 育児中女性の学会参加チャンスを増加させることができる
- 絶対必要！
- 利用のある無にかかわらず、このような配慮は必要と考える
- 夫婦で研究者など、増えてきている
- 毎回こういった機会をもうけることが重要だと思います
- このような情報を提供することが重要

<あまり必要ないという意見>

- 利用している声をきかない
- 会員向けの託児施設も大切だが、国の政策として働く母親を支援するサービスを充実して欲しいから

(質問5) 他の理学・工学・医学の分野と比べて、放射線影響学の、研究レベル、研究環境、キャリアパスや男女共同参画への取り組みを、どのように捉えていますか？

- 分野で比較するというか、分野で別々に行っていてもなかなか前に進まないのではないかと。行きすぎた男女共同参画が逆差別にならないことを祈っています
- すぐれている
- 積極的である。非常に活発である
- 全てが遅れている。
- ようやく意識が芽生えてきた感があるので大切に広げてほしい
- 他の分野の取り組みがよく分かってないので答えられません。申し訳ありません。
- 他分野についてわかりませんが、研究環境を整えることは大事だと思うので、積極的な活動が必要であると思います。
- 遅れていると思う
- 医学系学会に比べるとおくらしている
- 学問的なレベルというよりは、研究者のレベルによって違ってくるが、研究レベルの高い人はとても高いと感じる。(国際的にも)
- 詳細に調べていないが、感覚的には平均より頑張っておられると思う。
- 他分野のことはわからないが、特に不十分であるとは思わない。
- 放射線影響分野では、研究者数が他分野に比較して少ないことが理由なのか、キャリアパス・男女共同参画への取り組みが遅れていると思います。
- 入会1年目につき、比較できない
- 自分は、研究に携わってから2年目でしかない、キャリアの薄い人間ですが、私の研究室のPIは女性であり、彼女のキャリアなどについて私はとても尊敬しています。影響学会から考えますと、女性研究者に対しても平等に証を与えるなど、男女の壁がないように見える点もありますが、今回のワークショップにおいては、優秀賞発表者にひとりも女性がいなかったことは少し気になりました(私は発表しておりませんが)
- まだまだおくらしていると感じます
- 分からないが、ランチオンセミナーで話ができるくらい取り組んでいると思う
- 分野より大学・研究所に依存するのでは。研究環境は変わらないと思う。
- 女性研究者の定着をもっと推進する必要があると思います
- 遅れている。評議員、座長、受賞者の女性の割合を見れば一目瞭然
- 学生の研究レベルが高くなっていると感じた。キャリアパスできることが期待される。
- 安定したポジションの減少から、キャリアパスへの取り組みは最近盛ん
- 全体的におくらしている
- 意思決定できる職位(理事、学術評議員)に女性を登用する
- 他学会でのキャリアパス・男女共同参画への取り組み内容をよく知らないで比較ができませんが、若手育成・男女共同

参画への取り組みを継続してもらいたい。

- 共同利用施設が多い点（＝持っていない大型機器を使える）はメリットだと思います。あまり共同利用する手続きや報告書が面倒でない事が理想ですが・・・

（質問6） その他活動に関するご意見がございましたら、自由にご記入ください。

- 男性差別はやめて下さい
- これからも続けてください
- 学会にとって夫婦研究者（学会員）を大切にされる考えがあるならば、経済的支援（託児の必要時）がもっとあっても良いと思います。
- スタッフや担当者を5～10名程度にして、次世代への受け継ぎや、多様な意見を取り入れてはどうか。各人の負担も軽減できるかもしれない。
- がんばってください
- 興味深い内容が多くよかったです。ありがとうございました。
- これからもがんばって下さい
- テーマ別勉強会（修復、発がん）（共同研究の可能性）
- 学術大会ではかならずこういったとりくみをいれてほしい
- 定年後研究活動支援について
- 初めての試みでしたが、学会が一步前進したと思います。御苦労様です。
- お疲れ様でした

以上